

令和3年4月14日

◎**金岡委員長** ただいまから産業振興土木委員会を開会いたします。（9時59分開会）  
本日の委員会は、昨日に引き続き令和3年度業務概要についてであります。

《観光振興部》

◎**金岡委員長** 日程に従いまして観光振興部の業務概要を聴取いたします。  
業務概要の説明に先立ちまして、幹部職員の紹介をお願いいたします。

（部長以下幹部職員自己紹介）

◎**金岡委員長** 最初に、部長の総括説明を受けることといたします。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑と併せて行いますので、御了承をお願いいたします。

（総括説明）

◎**金岡委員長** 続いて、各課長の説明を求めます。

〈観光政策課〉

◎**金岡委員長** 最初に、観光政策課の説明を求めます。

（執行部の説明）

◎**金岡委員長** それでは質疑を行います。

◎**武石委員** 部長の総括説明にもあったように、令和2年度はかなり観光客入り込み数が落ち込んでるといふ本当に驚きの念を禁じ得ませんが、一方で町の声、例えば帯屋町とか中心商店街とかいろんな方の声を聞くと、やっぱり高知は物販、それから飲食のどちらも観光客に来てもらわんといかんとよく聞かされるので、部長から説明があった観光客の落ち込み数が本当に県経済に大きな打撃を与えていると思います。

それから、物販、飲食のみならずそれに関連して一次産業で、やっぱり居酒屋で供給される肉、魚、野菜へも影響があると、昔から観光はそれだけ産業連関が非常に広い産業だと言われてるんで、逆に言うとだから高知県は観光に力を入れてると。一次産業をボトムアップするためにも観光へ力を入れるということで、尾崎県政からずっとやってきた経緯もある中でこの打撃は、本当にこう冷や水を浴びせられたような気がしています。

一方で、部長と課長のこれからの方針を聞くと、非常に的を射たいい方針を打ち出されてると思うんで、それが1日も早く実現することを願っています。そこでなんです、まず県庁として、観光入り込み数が減ってる、それが県経済にどれだけ打撃を与えてるか現状をしっかりと把握をしなくちゃならないと思うんです。これは観光振興部だけじゃなくて、商工労働部をはじめ農業振興部いろんな、県庁全体で現状を分析して情報共有して、それぞれの課題に立ち向かうという姿勢が要ると思うんですが、部長、その辺の県庁としての観光が落ち込んだことによる各分野の影響、それからもっと言うと生産者だとかそういったところの影響の具合というのを、県庁としてどのようにしっかりと把握されているのかどうか。それをお聞きしたいんですが。

◎山脇観光振興部長 昨年、夏ぐらいから経済対策PTという、副部長級の会合を立ち上げて、そこで今後どう経済回復していくかももちろん話しますけど、その前に委員言われたように、どれだけの影響を受けたかをそれぞれの各部局ごとに全て持ち寄って共有してきました。ただ、同じ農業であっても、業務筋に出してるところもあれば、そういった個別の店舗に出してるところとそれぞれあるし、品目によってもばらばらでいろいろ影響の出具合が違うことも分かってきています。

今後これを継続していきますが、さらに今回こういう数字が出たこと自体もまだ県庁で共有できてないので、こうした影響をしっかりと踏まえて共有した上で県全体で、この対策をつくっていきたい考えです。

◎武石委員 そのようにお願いしたいと思います。

それから町の声で、もう一つはこれからゴールデンウィークを迎える中で、観光客には来てもらいたいけど、高知県は全国ニュースで見ても、うんと安全な県やという印象があるんで、逆に言うと高知にゴールデンウィークは殺到しやせんかえという心配の声も聞く。これは本当にもうジレンマだけど、やっぱりそれは来てもらわんといかん、これはもう絶対外せんきどんどん来てくださいと。一方で心配される事態にならないようにするためにやっぱりしっかり防疫体制を持って受け入れないかんと思うんです。つまり、たくさん来るだろうと思うんで、来てもらいたい願望もあるし、じゃあどのように安全体制を確保するのか。これも観光振興部だけの問題じゃなく県庁全体で取り組まなくちゃなん話だと思うんですが、その辺り、県としてこのゴールデンウィークに向けて、どのような体制で臨まれるのか部長にお聞きしたいと思います。

◎山脇観光振興部長 おっしゃるとおり両方の側面があって、とにかく県民が不安にならないことが大前提だと思ってますけど、とにかく感染対策を徹底すること。それをすることと、一定アナウンスをしたいと、県民の方もそういう対策をしっかり取ってほしいというお願いもしようと思ってます。実際、先週の週末なんかの状況を見てみると、やはり桂浜周辺にも来てますし、日曜市もかなり来てます。それぞれの県独自の周遊キャンペーンもやっていますが、そうじゃなくてもやっぱり高知に来たい方が結構いらっしゃると思うんで。私としては来るんじゃないかと思っていて、高知市で渋滞対策用のシャトルバスなんかも用意してますが、その中でも換気対策とか、並ぶところでの一定のディスタンスを取るといった対策ももう一度徹底をしてほしいと話を今してるところです。また飲食店とか、そういったところには再度、マスクの着用の徹底とかを何らかの形でメッセージとしてアナウンスしていく形で進めたいと思ってます。

◎森田委員 コンベンションへ部長が出られたこともあって説明も非常に分かりやすいし、その中で課長が説明された大阪の新機軸なんかもきちっと出始めた。コロナの時代でもあるけど、戦略は新機軸もしっかり立ててやっていかんと、いずれアフターコロナの時代に

なるし、新機軸をしっかりと練って行ってほしいというのが1点と。

それと、何かオリジナルな本県の施策を企画立案、熟成するのも大いに大事やけど、このコロナ禍で他県も同じような境遇にあるわけで、他県の新機軸というか、他県の研究をして、その上に本県の実情をアレンジしていくと。手探りばかりじゃいかんと思うがよ。他県も随分と企画をしゅうんで、その上に本県の県勢事情を覆いかぶせて、さらに洗練したものにして打って勝つという段取りやないといかんと思う。これまでも多分、観光政策課中心に、他県の先進事例、実情、対策を研究しゅうと思うけど、事ここに至っては同じ、40%の入り込み客数減で、部長が2回も1日も早い対応が要ると。本当に県内の観光関連事業者は大変な実情で、県民も知っちゃうし、部長、課長も存じちゅうと思うけど。そのためにも、県じゃないとできん企画は他県から企画を観察して、それに本県事情をかぶせて新機軸を打って出るということをぜひ研究してほしいと思うけど。

◎山脇観光振興部長 冒頭に説明した今の時代の変化を、しっかり対応するところの進め方にも大きく関係しますが、やはりその変化をしっかりと把握する意味で、いろんなマーケット側の情報をどれだけ正確に把握するか。もういろんなアンケートや、場合によってはビッグデータを使ったりとかいうことで、今どこに行ってるのかとか、第1波が終わって第2波の間にみんなどこに行ったのかということもしっかりと把握をしながら、県外の状況を把握することに併せて、先ほど言われたうまく取り組んでいるところはしっかり研究をして、本県にも取り入れる部分は取り入れながら、本県の独自の施策もそれに加えていものにしていきたいし。先ほど言ったように修学旅行なんかは、マーケットが大きい中でも、なかなか動かないのが今まででしたが、今はどんどん動いてるのである意味チャンスだと思ってます。そこなんかもしっかりと取り組んでいくことで本県の独自性を一定上げていきたいとは考えています。

◎森田委員 部長の言う他県の研究の上に企画して本県事情をさらにオンしていくと。しっかり頑張してほしいと思うので、県議会も同じ目線で同じ立ち位置で見てるんで、よろしくをお願いします。

◎上田（周）委員 課長にお聞きします。冒頭、部長から、入り込み数とか観光総消費額の説明があったんですが、これは暦年で去年1年間いうことで、450億円減ということが改めて考えてみると、県の税収が600億円に届いてないからすごい数字だと思いました。そんな中で県内の主要施設の利用状況ですが、多分、今年2月は大変な状況やったと思いますが、3月に入って自分の肌感覚の中でも、若干上向きになってないろうかという感じがしますが、その辺り現状はどうか。

◎鈴木観光政策課長 まず昨年、これ暦年でのデータになりますけど、昨年の県が取っている主要67観光施設の状況については、大体60%を切るような状況でまともっています。年を明けて1月、2月については主要観光施設の1月は大体累計で45%ぐらいになってお

り、2月も大体50%をちょっと超えるぐらいで、ちょっと3月はまだデータが出そろっていませんが、若干コロナの状況もあって2月より回復傾向にあると施設からは聞いています。

◎上田（周）委員 今、全国的にはコロナが大変厳しい環境の中ですが、今朝、NHKの8時前の四国をカバーしたニュースで、高知県が取り上げられ、リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～の内容を4月から一新してやっていくという放送があったんですが、これ結構PRになったかと個人的に思っています。冒頭、部長から令和3年度からの3つの基本方針の説明があったんですが、そういうことを踏まえて、今後、ある一定具体的にどのように展開していくかをかいつまんで説明をしてください。

◎鈴木観光政策課長 リョーマの休日キャンペーンが今朝、報道でも取り上げられたところですが、基本的には高知県観光の強みはやっぱり3つで、自然、食、歴史といったところを全面に出してというところですけども、コロナ禍においてやはり、旅行のスタイルとか、少人数に対応をしていくとかいった、そこをきちっと捉まえていくところは、若干時流を捉えて内容も変えていきながら、ニーズに対応していける強みを出しつつ、そういったニーズに対応していくといったキャンペーンの展開をしていきたいと考えています。

◎上田（周）委員 それでちょっと細かい話になって申し訳ないですが、この3ページのリョーマの休日の展開の中で、この観光施設の整備で、今年20日に山荘しらがオープンするので、ぜひこういうところの山岳観光を進めていくという視点で、UFOラインを含めて、相当若い人に人気があるので、その辺りよろしくお願いします。

それと先ほどから教育旅行、修学旅行の話が出ていますが、それも今朝のニュースでやってきましたけど、四国内は、コロナ禍で、小中学校などの修学旅行が近場を旅行するという流れになっているような放送でしたが、高知県の場合は、修学旅行についてはどんな現状ですか。

◎鈴木観光政策課長 まず最初の山岳観光については、実は関西戦略の中で大阪観光局の局長からも、高知県の強みの一つであるというお言葉を3月末にも頂いており、ぜひそういった取組を強みの一つとして取り組んでいきたいと考えてます。

それと教育旅行については、昨年度、予定していた数が61校で、キャンセルも実は結構出たんですが、逆に広島だったり、四国内で、結構沖縄県を行き先としていた学校が行けなくなって四国内の近場ということで、振り替えた学校が多く来ています。地域であるとか、観光コンベンション協会の助成事業を活用している実績を集めると、令和元年度は56校、約4,000人であったものが、令和2年度は約80校、8,000人程度、倍近くに実績としては伸びてきて、方面でいうと広島、四国内といったところが振り替えて増えてきている状況になっています。

◎上田（周）委員 いろいろ乗り越えんといかん高い壁もあると思うけど、ぜひ頑張って

よろしく申し上げます。

◎吉良委員 さっき武石委員もおっしゃった、県民の来てほしいけども、ほしくない。向こうも行きたいけども怖いという、ここはやっぱし、いかに早く突破するのかというのが、ウィズコロナ、アフターコロナの中での今、大事な取組の基本だと思いますね。そうすると今日、高知新聞で旅行業者とか宿泊とか交通業者がPCR検査つきの商品を開発し始めたというのがあるんです。あれは例えば宴会でも、企業の会議でも検査つきだと、何か行きやすいという安全を売っていくというすごくいい面白い取組だと思います。特に受入れ側の宿泊施設の従業員の感染があるかないかというのは、行くほうにとってみたら非常に大事なんです。結果的にその数値が低いじゃなくて、今現在、こういうことで高知は感染を克服しつつあることを見える化していく取組は非常に大事だと思うんです。そういう面では、もちろんGoToだとかいろいろキャンペーンでお金を出すのも結構ですが、やはり宿泊だとか観光施設のお土産物屋も含めて、受け入れる側のそこにちょっと検査のお金を援助してあげて、徹底的に高知は大丈夫ですというキャンペーンの仕方もあるんじゃないかと思うんですが、そこら辺の考え方をちょっとお聞きしたいんですけども。

◎鈴木観光政策課長 委員おっしゃるとおり安全安心に観光客に来ていただくというのは非常に大事だと考えており、昨年度、国の交付金なんかも使って、各観光施設にはそういった感染対策の施設の改善とか、あるいは宿泊施設にもそういった改善をお願いすることも事業としてやっていたので、さらにそれを進展させて、御提案のような内容も旅行会社ともお知恵をお借りしながらそういったものが商品化できないかとか、そういった検討はぜひしていきたいと考えています。

◎吉良委員 ぜひちょっと検討してみてください。

◎横山委員 令和2年度は266万人ということで、もう相当、かなりの大打撃ですね。今後435万人に回復していくのは令和3年度は3分の1を経過してなかなか厳しい状況であると。そこで見直しも図っていかないかということも部長おっしゃたけれど、今3分の1過ぎてどのようにそれを今後見直しかけるのかと、現時点でどのような見通しなのか。

それともう1点は、400万人台以上で、高知県の観光業界の事業者の継続と雇用の安定が守られてきたとするならば、やはり400万人までに回復するまでの支援をしっかりと今から打ち出していかないかと思ってます。そういう意味の数字の計画に、私はそれを支援策と数字の見直しをセットでやってもらいたいと思ってるんですが、その辺の見解を部長にお聞きします。

◎山脇観光振興部長 この数値目標というのは、県庁の目標ではなくて県全体のみんな達成していくべき目標なので、これは先ほど言われたように、どういうところを目指していくのか、この落ち込んだ後にどういう希望があるのかも含めて、しっかり話をした上で決めていかないといけないと思うんですが。まずはゴールデンウィークの状況、それから

夏休みの人が大きく動くようなときの状況も見た上で、一定の見極めもしながら見直しを考えていかないといけないんですけど。それとセットで今までの戦略をもう一度ちょっと練り直しをしたいと思っており、こういう手を打ってここまで持っていくというのと併せた形で見直しをしたいと思っています。

状況は悪いことが今は多いですけど、7月に皮切りになる「竜とそばかすの姫」という映画が非常に期待されていて、舞台が高知なので、これに関してはかなり関係者、旅行会社の方もそうですが、高知へ随分目が行くんじゃないかという話も聞くし、それからグスティネーションキャンペーンもあります。それから、まだ公開されてませんが、大きな映画が、またもう1弾控えてるような話も聞いており、そういった追い風をできるだけロスなく、活用していく方策もセットで今年度、回復策に関しては今日はもうここまでですが、分析を深めて対策を練った上でまた説明をしたいと思います。

◎横山委員 ぜひそういうことで進めていただきたいと思っています。ポストコロナの観光政策も、今からしっかりと練り上げていただきたいと思っています。

それと政府が観光需要回復のための政策プランを策定した中で、様々やって柱を立ち上げてるんですが、まず1番目はやっぱり感染防止の徹底ということで、やはり感染防止をすることがすなわち観光需要の回復につながることに於いて、事業者と旅行者双方の感染拡大を防止していくこと。これは先日、物部川のDMOが、自分たちで感染予防に努めますという認証制度みたいなものをつくって、物部川流域の観光事業者が認証制度を取るとか、いろんなところで感染拡大防止を自分たちがやっていることを、当然事業者としてもやることに加えて、やっぱり旅行者も感染拡大防止に積極的に協力してもらう、この枠組みというのをしっかり高知県がつくっていただきたい。つくってるんだろけれども、特に少人数の旅行になればそれも徹底しやすいんじゃないかと思っているので、事業者と旅行者双方の感染防止策をしっかりとやって、これを高知県は進めてることをPRしていただきたいと思いますが、その辺の意気込みというか、お聞かせください。

◎鈴木観光政策課長 感染防止策をしっかりと取ることが県外から来るお客さんに向けても、一つのPRポイントになることはもうおっしゃるとおりだと考えているので、事業者、関係者の集まりがある場でのそういった話もお互いに情報交換しながら対策の度合いを上げていきたいと考えています。旅行者に対してもそういうアナウンスをすることについても非常に重要なことなので、そこも旅行業者等のセールスとそういった商品づくりの中で組み込めないかということも協議していきたいと考えています。

◎横山委員 よろしくお願ひします。

◎橋本委員 入り込み客それから消費額が40%、観光関連で落ち込んでるということですが、ただ一つは今の事業を継続するとか、例えば拡大をするとか、例えば業態の転換をするとかという支援策が国も県も、それから市町村もそれぞれ相当発信していると思います。

その中で今の高知県のこの業界の状態がどういう方向にあるのか教えていただきたい。例えば再構築の補助事業なんかは経済産業省が出してる事業があるじゃないですか。そういうことに取りかかるためには、3分の2を一応国が補助すると、結構銀行を中心に発信しているところが確かにあるようなんです。そういうような状況を県がつかんでるのかどうか、その辺もちょっとお聞きをしたいと思います。

◎鈴木観光政策課長 事業のいろんな支援の形がある中で、昨年度来のコロナの落ち込みで例えば各種融資制度や国のいろんな支援策、メニューがいっぱい出てる中で、事業者もどういうふうに関心したかという悩みなんかも聞く中で整理したものを、実際私は昨年まで市町村にいたので、当時であれば県と協議しながら提供していったこともあるし、県もやはりいろんな部局にまたがる事業支援があるので、観光事業者らに対してどういったものがマッチするのかといったことは、整理しながら発信していくことが大事だと考えています。

◎橋本委員 要は事業者は、どんなメニューがあって、どんなに使うたらえいがやろ。どこに誰がどんな形で言うたらえいがやろ。要はこういうことをしてもらえたら事業が継続できるのに、けれどもこういうことがなかったら事業が継続できなくなる、どうしよう。そんなことがたくさんあると思うんです。それに対して、やっぱりしっかり向き合う。だから、ある方がちょっと言っていました。商工会議所に相談しても何も分からないし言ってくれないとかいうことがあるわけですよ。そういうことになれば非常に事業者も不安だし、例えば旅行客がこれだけ減って、要は消費額がこれだけ減って非常に厳しい。もう続けていくことはできない。その中で何か生き残るすべを探しながら、もう旅行業界に見切りをつけて、業種の再転換をするとかということに対しては県はしっかり向き合ってあげないと。ただ、これだけメニューがあって分かりませんねみたいな話では、いかなのではないかと思います。だからそういう意味では、せっかく助けるツールを出してくれてるわけだから、それをしっかり周知をすることに対してはもう少し力点を置いた対応をお願いしたいと思うんですが、どうでしょう。

◎鈴木観光政策課長 現在も国で様々な例えば観光版持続化給付金とか、そういった検討もなされていることも聞いており、今後もいろいろ動いていくところが多々あると思います。そういった情報を県の観光としても整理しながら事業者にもしっかりと、あるいは地域に、提供ができるように努めたいと考えています。

◎橋本委員 このコロナがいつ収まるかまだ分からないじゃないですか。今からどんなダメージがどんどん出てくるのかも分からない。そんな先の見えない中で、事業者は一生懸命頑張ってると思います。そのために「頑張りや、こんなこともしちゃうけんね。こんな形がお手伝いできるけんね。」ということで、それぞれの補助事業とか支援事業が発信されてると思います。そのことがきちっと事業者には伝わらなかつたら意味がないので、あんま

りあり過ぎてどこをどうやってつかめばいいのかということがちょっとあるかも分からないので、その辺はやっぱりしっかり精査をしていただくように重ねてお願いをしておきたいと思います。

◎**浜田委員** 国内誘致事業の教育旅行について、先ほど上田（周）委員の話聞いて、ちょっと一つ教えてもらいたいんですが。この国内旅行誘致事業は、ここの観光政策課が旅行者に対して来てくださって言うてくれというて、どこにどうアプローチして、この誘致を進めていってるんでしょうか。

◎**鈴木観光政策課長** まず基本的には、教育旅行を扱う旅行会社に対して高知県の今の情報を発信することが一つと、そういった学校を高知県内に送り込んでもらう旅行会社に対して一定の助成金を出して、来てもらうことを有利にするといったこともやっています。基本的には旅行会社への投げかけという形が多いし、あと県外事務所等でも実際そういったコネクションを使って学校へ直接アプローチしたりといった事例もあります。

◎**浜田委員** 先ほど上田（周）委員の話にもあったんですが、例えば香南市でいうと、去年、小学校の修学旅行が香川県のレオマワールドと愛媛に行ったり、中学校は例年の沖縄にそれこそ行ったりするんですけど、それは私聞いてみて、県内で何か関西に行けなくて四国にしたって話だったんですけど。それなら県内で幡多に行けばいいじゃないかと自然と思ったんですけど、そういう県内の小中学校の旅行や研修に対して、教育委員会と連携してアプローチをやられているのか、やれないのか、それはどうなってるんでしょうか。

◎**鈴木観光政策課長** 正確な情報じゃないかもしれないですが、昨年度、まさにコロナのときにそういった県内でできないかという話を投げかけたとちょっと耳にはしています。直接我々ではないですが、教育委員会サイドからそういう話があったのは聞いているし、これ教育旅行ではないですが、一般旅行については先ほどのコンベンションの事業の中で、県内の旅行会社が県内の旅行商品をつくるのに対して助成を強化したいというふうな予算を今年度立てているところです。

◎**浜田委員** 私も直接保護者から聞いた話ですし、言われましたけど、それによって例えば県外に出ることで修学旅行なりに行かせないという親はやっぱりいて、先ほど来のお話ありますけど、非常にコロナのことを警戒している親もいるし、そういう御家族が多いわけで、それに対してこれはチャンスなので。県内でなら安全と、せめて県内にしてもらえたらと実際に保護者で言う人もいる。そしてやめる人もいるとなると、そもそもがこれまでの広く沖縄、高等学校に至って海外とかいろんなことを聞きますが、そんなのじゃなくて、これだけ磨き上げて自分たちで使わなくて、県外の人もいいですけど、自分たちの魅力を自分たちの子供たちに、いかに分かってもらうか。そのために教育旅行とかがすごくいいと思うので、ぜひ今後、今後の課題としてやはりそういった教育委員会との連携も視野に入れて考えてもらいたいので、ぜひお願いします。



◎山脇観光振興部長 修学旅行を決める仕組みを十分踏まえた上で対応していく必要があります。今は県外からの話ですが、県内の学校に県内を回ってもらうことにも取り組んでいます。教育委員会とも話もして、学校のほうにも行ってもらっているんですが、旅行先を決めるのは、結構保護者の意見がどうなるのかということに学校も配慮はするけど、最終的には日本旅行とかJTBとかトップツアーズみたいところがいろいろ案を持っていった中からになるんで、今、順番に県内にある各旅行会社のほうに回っており、旅行商品として修学旅行の行き先として県内を入れてもらうお願いをしています。旅行会社からも、県内を回る場合に森林学習や産業教育とか修学旅行にふさわしいメニューを前面に出したいのでと、いろんな球出しとか受入体制とかという話も逆に聞かれたりもしており、県内の地産地消というか、周遊というのもこの機会に定着させていきたいと思っています。

◎浜田委員 コロナだからこそ、やはりこれを攻めに転ずるというか、まさに教育の地産地消もやってもらいたいんで、よろしくお願いします。

◎森田委員 1点だけですが、先ほど横山委員も橋本委員も言ったりしたけど、観光行政が順風満帆なときには非常に成果を上げてきた、430万人からはもう落とさんぞと言って政策を研ぎ澄ましてやってきた相棒は、県内のその観光客を受け入れる受皿の民間のホテルや旅館であり、あるいは周辺の観光産業だったんですよね。県は生活実害がないけど、ふだん苦楽を共にしてきた本当の相棒は今、非常に厳しい状況なわけです。だからそんなことを知った上でいろんな施策を練ってくれようけど、今は、橋本委員が言ったけど、満艦飾に政策にピンポイントがないようなことで示してもなかなか。僕は相棒が今本当に困っちゃうときやき、ぜひとも政策を研ぎ澄ますのも一つやし、他県の先進対応を研究するのも一つやし、具体的な支援施策を積み上げていくこと。コロナの特別委員会でも観光も随分聞いたと思うけど、非常に分かりやすい景気と直結した産業なんで。県が旗を振って観光施策で裾野の広い働き口を県民に与えてきた、その一番大事な相棒が今重篤な状況なんで、ぜひともそこに心を致した具体的な施策と、それから支援とかをぜひとも。1人で成果を上げてきたわけじゃないし、その一番の相棒が今非常に厳しい状況なんで、しっかりそこを忘れず、今回成果を上げる施策を繰り出してほしいと思うので、よろしくお願いします。今回は課長にお聞きをしたいですけど。

◎鈴木観光政策課長 厳しい状況はもう間違いないところですので、あらゆる知恵と施策を総動員して挽回を図れるように努めていきたいと思えます。よろしくお願いします。

◎森田委員 いわゆる受皿である個人事業主よね。ホテルであり旅館であり、その人は大きな施設をお客さんがおらんときも維持しながら雇用も継続しながらつなぎ止めて、随分目に見えん苦勞が今もずっとある。ぜひそんなことにも心を致した政策を打ってほしいと思うので、よろしくお願いします。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

観光政策課を終わります。

#### 〈国際観光課〉

◎**金岡委員長** 次に、国際観光課を行います。

(執行部の説明)

◎**金岡委員長** 質疑を行います。

◎**武石委員** 橋本県政の頃から観光にも力を入れてきたわけですが、尾崎県政になって入り込み数もう400万人台と、橋本県政のときは想像もつかないような数やったんですが、今当たり前に達成できてるのはすごい観光に力を入れてきた成果だと思ってます。橋本県政の頃、観光とは何ぞやという議論も議会でしたときに、こういう、何か県と議会の間で共通の意識があったように記憶しとるんです。それは情報を確認する行為が観光なんじゃないかと。つまりテレビで見た、そこへ行ってみたい、それを食べてみたい、それを現地に行って体験するのが観光の原点じゃないか。そういう魅力を高知県から発信していこうと、やっぱり情報発信が大事なんだろう。それで観光客にはそれを確認してもらい、実際に体験してもらおうといったことを基本コンセプトにやってきたような記憶もあるんですけど。時代は流れても今でも、デジタル化になったといえども、あるいはグローバル化もしていますが、同じことではないかと思うんですけど。そういう意味で、課長が一番先に説明していただいた、課題として観光地としての認知度が低い、だから本県の魅力が重点市場等の方々に訴求されていないということ。つまり情報発信が十分できてないことに行き着くと思うんです。それで参考のところにある重点市場とはここですというのも数か国ありますが、それぞれ志向も違うと思うんですけど、ここに今のデジタルなんかのツールを使ってどのように本県の魅力、つまり確認したいという情報を、どんな情報をどういう形で出していくのかという、そここのところを課長に所見をお聞きしたいと思うんですけど。

◎**澤村国際観光課長** まさに今まで、この国のこういう層に適切な情報を発信できてたかという、そこができてなかったというのが一つ課題でしたので、昨年度デジタル技術を活用してユーチューブで5つの自然をメインテーマにした情報発信をしてきました。その情報発信をした結果が、例えばこの国の男性の層はこういうテーマに興味があるというのが実は昨年の情報発信で分かってきました。例えば韓国であれば、女性が自然に興味があると。そういう場合は女性が見るウェブサイトとか、旅行雑誌などに自然をテーマにした情報発信をするとか。香港であれば、男性が食に興味があるというのが分かってきたので、男性が見るウェブサイトとか情報、旅行雑誌等に食に関連する情報を発信していく。遅いかもしれませんが、昨年の情報発信の結果そういう、特定の層にこういう情報が刺さるといのが分かってきたんで、そういった情報を生かしながら、今後プロモーションを展開していきたいと考えています。

◎**武石委員** 分かりました。先日、北海道の状況を聞く機会があったんですが、もう御存

じのように北海道は、雪を見てみたいというインバウンドの需要があって、すごくにぎわってたんですけど、今はもう町は閑散として、もうすごい落ち込みという話も聞いたんですけど。そこで最後に聞きたいんですが、2ページの右上にある落ち込み数、外国人の延べ宿泊者数が直近の数字で9.5万人泊から1.7万人泊になってるとありますが、全国的なインバウンドの落ち込み具合と比べて、本県の落ち込み具合というのはまだましなほうなのか、全国並みなのか。落ち込み具合というのはどんな状況ですか。京都とかも人気のスポットもありますけど。お分かりになるやったら。

◎澤村国際観光課長 令和2年のこの1.5万人泊というのが、1年通じた暦年の数字ではあるんですが、実際の数字としては1月、2月、去年のコロナの感染状況が広がる前の数字になってるんで、その状況の数字でいくと全国的には同じような形で恐らく1月、2月の数字が、ほぼ昨年 of 暦年の数字になってると思います。

◎武石委員 分かりました。

◎森田委員 武石委員に関連するところですけど、最初に冒頭説明のあった、国際観光は長い時間をかけて回復するとの観点からいうと、随分遅れた情報発信をしたのに今からも確認に現地へ来る。そういうことからすると、やっぱりWi-Fiスポットが格段に本県は低い。だけど統計的に高知県が並べちゅう数字を見ると整備率は非常に高うに書いてあるけど、僕はどうしてそんな高い数字になっちゅうのかと不思議で分からんけど。要は観光スポットとか縁端部の観光スポットも、ピンポイントでWi-Fi環境スポットをもっと整備をせんといかんと思うがです。Wi-Fiスポットは、空港もしかりやけど、そういうターミナルもそう、県庁ロビーも観光ホテルもやし。それから観光地、縁端部の足摺岬の灯台の下にもやっぱりそういうのがあってこそ、SIMカードも入れてないような人が、外国クルーズ船で来るわけやから。そういう人はもう箱だけ持ってくるんで、Wi-Fiスポットをつくってこそ初めて情報発信をしてくれて確認に来てくれる。そういう意味で、国際観光課にはもっと急いでほしいと思うんで、一言言わせていただきます。そこは頑張ってくださいね。

◎澤村国際観光課長 我々プロモーションももちろんしっかりやっていくし、そういう受入れ側でとして、Wi-Fiスポットの環境についても、関係のおもてなし課を中心としてコンベンション協会とも連携しながら、取組を進めていきたいと思います。

◎橋本委員 新規市場にイスラム圏のマレーシアとかインドネシアが入っています。当然、ムスリムの皆さんに高知に来ていただくことはよく分かってるんですが、世界人口の4分の1が、多分ムスリムの方なので、そのターゲットは当然あるべきだと思います。しかし、いかんせん、要はハラル対応が全くない状況の中では来たくても来られないのが現実にあるようです。私は2年ぐらい前に、ちょうどインドネシアに行ってきて、観光関連の事業者にも尋ねたんですが、日本という国は非常に魅力がある国で、さっき武石委員も言っ

てましたが、情報の確認に行きたいという方がたくさんいるとは言ってました。しかしながら、私たちの習慣が、なかなかそれにマッチができてないので、なかなか我々から進めるのは無理という話も聞きました。だから、こういう新規市場を開拓するためには、発信はいいんで、発信した後の受入れの用意、準備というのも周到に進めなければ、やっぱりただ発信しているだけにしかならないと思います。その辺に対する対応はどういう考え方を持ってるのか。

◎澤村国際観光課長 まさにおっしゃるとおりで、先ほどお話のとおり、ムスリムが20億人ぐらいの人口があって、直近の令和元年の訪日客でいうと90万人ぐらいが来られています。大事なターゲットであると認識をしています。なかなか受入れがおっしゃるとおり難しいところがありますが、一つの事例として高知県内の飲食店で例えばそういう方々に食べられたら困るものが入ってるか入ってないかというピクトグラムで表示している店舗の数はまだ少ないです。最初は12店舗ぐらいが2年間で40店舗ぐらい増えて、60店舗ぐらいにはなってるんですが、なかなか歩みは遅いかもかもしれませんけれども、少しずつそういった取組も進めていきながら、海外のムスリム圏に対するプロモーションも行っていきたいと考えています。

◎橋本委員 特に言ってるのはハラール認証についての店舗がかなり増えてこなければ難しいということだと思います。ただ、インドネシアでは、もう一応ハラール認証は法制化されてる状況もあって、やっぱりそういうことをしっかりと進めていかなければ、幾らイスラム圏の方に呼びかけたとしても、それは空鉄砲を撃っているようなところがやっぱりあるので、もしやるんだったらその辺もしっかり対応を整えていかなければならないと私は思います。どうかよろしくお願いします。

◎横山委員 国際観光の推進は、今受入れの再開に向けた準備をしているということで大変私も期待するところですが、日本政策投資銀行の調べによると四国に来る訪日外国人は自然体験に期待するところが大きいという意向調査が出てると。自然体験をこのコロナと高知と合わさってると考えますが、そこら辺の受入環境の整備ですよ。例えば、私の地元の吾川郡であれば、仁淀川町にカヌーの仁淀川アウトドアセンターというアクティビティもあるし、上田（周）委員もおっしゃったけど山岳観光もいの町本川で山荘しらができると。そういう自然体験をするところのハード的なものは、しっかりこう環境整備が整っていったとしても、森田委員が言われたW i - F i の環境であったり、言わば多言語で対応ができるような何か仕組みがあったりとかというような、自然を求めて来る滞在型の訪日客に対して、しっかり高知県が取り込んで対応できるよというPR、またその体制づくり、この辺をしっかりと、ソフト的なものも私は進めていってほしいと思うんですが、その辺はどうか、課長にお聞きします。

◎澤村国際観光課長 まさに高知県はもともとある自然環境というのは本当に我々に与え

てもらった魅力だと感じてます。実際にそれを求めて来られた方が快適に過ごしてもらえ、高知に来てよかったと思ってもらえるような環境づくりというのは、まさにおっしゃるとおりだと思うんで、そういった視点で我々、プロモーションするだけでなく来ていただいた方に気持ちよく滞在してもらえるような環境づくりというのは、もちろん取組を進めたいと思っています。

◎横山委員 自然を求めてやってくる、すなわち中山間地域の振興に直結するというところで、これまさしく産業振興計画の方向性の一つの中山間地域の展開につながるんで、ぜひ訪日客が復活、再開した場合は、ぜひ自然、そして中山間というふうに広げていってほしいと。その視点を持って進めていただきたいと、これは要請ということで、よろしくお願いたします。

◎山脇観光振興部長 先ほど武石委員からの質問に十分答えてなかった分についてお答えいたします。日本全体で外国人観光客の落ち込みが全国ベースでマイナス82%。本県でいくとマイナス82%ということで、ほぼ同じ比例した形で落ちている状況だと思います。

◎吉良委員 このプレミアムよさこい in 東京は、オリンピックを開催してもしなくてもやるんですか。

◎岡国際観光課企画監 これまで全国に広がるよさこいで東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げようという趣旨で、この2020よさこいで応援実行委員会を立ち上げて活動してきました。仮に東京オリンピック・パラリンピックが中止になった場合についても、今会員が91団体いらっしゃるんで、皆様の意見を改めて確認をしながら、どうするのかを考える必要があると考えています。もし皆様が中止するべきだといった意向が大勢を占めれば、これに従うのは自然な考え方だと思っています。ただ、オリンピック・パラリンピックをよさこいで盛り上げることを大義として活動を進めてきたので、その意向は尊重しながらも、本県としては当該事業に係る予算措置もしているんで、適切な執行の在り方について、県議会にも十分相談をしながら検討していきたいと思っています。

◎吉良委員 分かりました。

◎浜田委員 吉良委員の質疑に関連して、このインターナショナルよさこい事業の第68回よさこい祭りの中でというのも、先日試行チームを拝見すると、何かよさこいの形が変わるやに書かれてましたけど、この場合も同様に、どのようにやっていこうというおつもりでしょうか。

◎岡国際観光課企画監 インターナショナルよさこいの実施が可能かどうかは、今年度、第68回のよさこい祭り振興会とか関係団体の方と協議をして進めていきたいと考えています。

◎金岡委員長 国際観光課を終わります。

ここで暫時の間、休憩を取りたいと思います。再開は、午後1時といたします。

(昼食のため休憩 11時34分～12時59分)

◎**金岡委員長** それでは、委員会を再開いたします。午前と同じく聴取を行います。

〈地域観光課〉

◎**金岡委員長** 次に、地域観光課を行います。

(執行部の説明)

◎**金岡委員長** 質疑を行います。

◎**橋本委員** 足摺海洋館「SATOUMI」ができて、非常に土佐清水の観光に対するインパクトが出来上がってきつつあります。ただ、いかんせんコロナ禍で、かなり厳しい状況もあったんですが、館長に何うとかなり順調に集客できていると、20万人を超える状況もう目の前に来てるので非常にありがたい。まずは感謝を申し上げたいと思います。ただ、今の状況は、確かに「SATOUMI」には来てるんだけど、その「SATOUMI」に来た方々が足摺岬のほうに来ているのかどうなのか。それから、宿泊関係が足摺という地域、例えば竜串という地域に宿泊してもらえてるのかどうか分かれればちょっとお答え頂ければありがたいと思うんです。

◎**別府地域観光課長** 足摺海洋館は、橋本委員から話があったように、年度末で17万5,000人と、予想を上回る方に来ていただいているところです。非常に好調なんですけど、足摺岬とか、あるいは宿泊のほうに結びついているのかという話ですが、土佐清水市なんかは、皆さんとかに聞くと、一定やっぱり周辺のほうにも来ていただいているとは伺っていますが、ただ、宿泊、特に土佐清水市になると宿泊ホテルとかもたくさんあるので、海洋館のいわゆる半券なんかを持っていってもらって宿泊が安くなるとかの宿泊プラン、セットプランの造成なんかをちょっと取組を強化したいと考えてるところです。

◎**橋本委員** コロナ禍ということで、先ほど雑談で言っていたんですが、グランピングみたいな形が非常にはやってて、かなりいろんなところで施設がこのコロナ禍でもできつつあります。そういう情報もあるんですが、ただ、高知県としても、かなりキャンプ場の整備をスノーピークとかモンベルが入ってきて監修してやられている。そういうような、例えばグランピングまではいかないにしても、キャンプ場の利用度とか、そういう状況はどういう形で見ているのか教えていただければありがたいと思います。

◎**別府地域観光課長** キャンプ場ですが、先ほど説明したように、民間活力も導入した形で、いろんな整備が進んできています。例えば大月町だと、キャプテンスタッグと連携して整備が進むとか、あるいは四万十市では、関東の山梨県とかのほうでキャンプ場なんかを運営しているPICAリゾートに入ってもらって、全国的な知見を入れた形で整備が進んできているところです。広い形で進んできており、実際その人数の把握については、個別に聞き取りなんかもしているところです。キャンプ場自体はやっぱり今のコロナ禍にお

いても、好調というか、集客は一定できていると認識をしています。

◎橋本委員 今回のアウトドアブームと重なって、キャンプとか屋外でのそういう体験と自然と戯れるというところが非常に大きく花開いてるとこの言い方がいいのか分かりませんが、そういう状況で流れていると思います。それとやっぱり家族単位、近い単位でそこで宿泊しているような体験ができるような形が受けてるのではないかと。今まで既存の、例えば大きな固定したホテルに泊まってそこでいろんな方々と接触してよりか、こういう形がひょっとしてウィズコロナ、アフターコロナの形なのかなという気がします。その辺はどう捉えているのかお答えいただければありがたいです。

◎山脇観光振興部長 言われたように、これまで自然体験キャンペーンを通じてこういった屋外型のキャンプ場の整備を含め、進めてきたこと自体は今思えば非常にウィズコロナ、アフターコロナに向けていい策だったとは思っています。それと民間活力を頂いて市町村とマッチングしながら、そのままの自然を生かした形ということに関しては、これを基盤にこれからの時代進めていくべきだと考えており、今後そういったグランピング志向とか、バンライフとか、いろんなことができるように、ソフト面も含めてしっかり対応していきたいし、それぞれの状況も把握しながら進めていきたいと思っています。

◎横山委員 多分、地域観光課だと思うんですけど、ワーケーションはこれから一つ大きな柱になってくるかと。今、政府の政策プランでも、まず感染防止してG o T oやって、次にワーケーションみたいな感じで柱を立ててるんですけど。さっき橋本委員が言われたように、屋外志向、自然志向、今日はもう朝からずっと説明は、これからウィズコロナ、アフターコロナで自然だということで。ワーケーションというのはテレワークが広がってくる中で、これも一つトレンドかなと思ってて、それを今後どのようにマッチングしていくか、その受入れのハード、ソフト、両方の整備です。香川県では、ワーケーションの協議会をつくって勉強会も開いてるんです。やっぱりこのワーケーションというのは新しい取組のように思うんですが、地域と事業者と働き手が一体となって全てがウィン・ウィンになる関係がワーケーションだという定義もあるので、その辺のワーケーションに対する取組を勉強していくような施策もこれから進めていくべきではないかと思いますが、その辺の全体像を聞かせてください。

◎別府地域観光課長 ワケーションについても、コロナが拡大したときから、国のほうでいわゆる国立公園を中心にまず整備の補助金が出てきて、それに対し県でもプラスする形で制度化して、まず補助を、いわゆる受入環境整備、リモートワークできる整備を進めてきています。ただそれは国立公園だったので、昨年9月議会に補正予算で、国の交付金を使って、いわゆる宿泊施設と、あと観光施設においてもそういったリモートワーク、W i - F iとかできるような整備を補助金を使って、繰越した分もありますが、今、受入環境整備を進めてきています。あわせて実際高知県で、いわゆるワーケーションの過ごし

方ができるのかということもあると思うんで、そこも今、昨年度高知県ならではのワーケーションのモデルプランをつくって、それをこの4月に、いわゆるワーケーションはどんなところでできるのか、どうしたらできるのかというサイトをちょっと立ち上げたいと考えています。加えて、実際なかなか一般にワーケーションやるというようにしても、なかなか来てくれないこともあるかもしれないので、一定、高知県につながりがある、例えば企業の方とかに高知県でこういうワーケーションの過ごし方ができると、直接提案するかいった取組もしていきたいと考えています。

◎横山委員 サイトを立ち上げるということで、すごくこれで分かりやすく、いろいろワーケーションにチャレンジするところが増えてくるかと思うんですけど。今、人材育成にかなり力を入れられてるので、やっぱりこれから先このワーケーションに対するスキルとか、ワーケーションと地域と企業をつないでいくような人材も育成していくと、今後さらに進んでいくと思うので、その辺もぜひよろしくお願いいたします。

◎上田（周）委員 1点だけですが、これからの地域観光で、滞在型の観光を進めていくということで段階を踏んで、先ほどの説明で最終的に6つの広域圏で連携して、それぞれの観光協議会と、もちろん市町村も県も入ってやっていく中で、ちょっと1つお願いですが、このコロナ禍で地域の様々なイベント、お祭り、伝統行事が中止になってます。代表がよさこい祭り、また赤岡のどろめ祭りとか、秋葉の伝統行事の縮小、そして旧本川の氷室祭り、仁淀川の人気のある紙のこいのぼり。これは特に地域観光をこれまで支えてきた、いわゆる自然相手のイベントが2年続けて中止になってます。ほとんどが手作りで、地域の方が特色を生かして、もう4分の1世紀にわたって頑張ってきた中で、高齢化とかマンネリ化とかいろいろあるけど、2年続けて中止になった場合、3年目の復活ということがちょっと心配になりました。先ほどの説明でも、県からは地域支援企画員とかが実際頑張られてます。私も氷室の山を守ってますが、そういうことを考えて、もし復活をもうようせんぜよとなったときに、そこな辺りの不安があり、今からやっぱり県としてそういうところへ重きを置いて関わっていく取組をぜひお願いしたいと思って、課長の御認識を伺います。

◎別府地域観光課長 コロナ禍で、特にその郡部とかだと、やっぱりお年寄りの方とか、人がいっぱい来てコロナが感染するんじゃないかという心配もあって、なかなかイベントが開催しづらい状況になっているのは認識はしています。ただ、その中でもやり方を工夫するとかいろんな形でイベントを続けるとか、例えば赤岡のどろめ祭りやとそういうふうなお酒のセットをちょっと販売するとかいう工夫なんかもされてると伺っています。そういったイベントなんかも、地域本部とかうちもそういう形で何とかできないかとかいう相談があったらもうちょっと知恵を出して、少しでも地域の活性化とかにぎわいにつながるように、また寄り添いたいと思います。よろしくお願いいたします。



◎上田（周）委員 1つ例で、秋葉まつりでしたら、氷室祭りもそうですが、地域挙げての伝統行事というか、つくってきたものなので、地元の方に話を聞いたら、その祭りを開催することで、向こう半年分の、いわゆる地域への経済効果があるとかいう話も承ったことあるのでぜひ、先ほど課長の力強い御答弁いただいたので、ぜひそういう方向でよろしくをお願いいたします。

◎武石委員 地域観光を活性化するために主役たる市町村がしっかり取り組んでもらいたいと思うんですけど。課長から見て、市町村の観光振興に向けての温度差があるのかどうか、もしそういうことを感じるのであればどのように対応をしているのかお聞きしたいと思います。

◎別府地域観光課長 もちろん観光というのは、基本的にはやっぱり市町村の取組が重要になってくると思います。市町村も温度差があるかと言われると、ないことはないとは思いますが、ただ、自分の感じでいくと、どの市町村も以前に比べるとやっぱり観光をやっ払いこうという機運は高まっているかと思っています。自分のほうも今、滞在型の観光地域づくりということで、広域観光組織が中心になって広域エリア単位で取組を進めているので、その中で市町村を巻き込みながら、地域全体、広域エリア全体で観光の底上げというか、市町村と連携した取組を進めていきたいと考えています。

◎武石委員 そこで1つ具体例を挙げると、課長も乗車いただいたように、観光列車が高知県で初めて高知駅と窪川駅を週末を中心に往復するようになりました。これも年間通じたらかなりの人が乗客も来てくれる1つの目玉ができたと認識しています。だから四万十町では乗客へのアンケートを7月からずっとしてきて、結構リピーターが多いとか、それから片道だけしか乗らんだろうと思ってたんだけど、往復とも観光列車に乗る方が意外と多いとか、あるいは窪川まで来ずに、久礼で降りて、大正町市場で買物して、もう一般の特急で帰るとか、いろんな形態がある中で、ここでちょっと質疑というか提案ですが。やっぱりせっかくのツールですから、もっと観光列車に乗ることによって高知県のよさを知ってもらいたいし、リピーターとしてまた高知県に来てもらう起爆剤にもしたいし、せっかく乗ったんやったらそのままとんぼ返りじゃなくて、1泊でもしてもらって県内を周遊するような仕掛けもしていかないともったいないと思うんです。やっぱりアンケートを取ると、観光列車に乗ることそのものが目的で、窪川に着いたら何をしようとかはほとんど考えられてないという現実も浮かび上がってきてるんです。午前中も言ったように、私は観光というのは情報を確認する行為だと思ってるんで、やっぱり観光列車に乗る方々に、観光列車の情報はもう皆さん知ってるから観光列車の体験をするわけで、観光列車の体験以外にもこんな面白いことがあるんですよという情報を、そこにくっつけていかないともったいない気がするんです。

ここで地域観光になるわけですが、四万十町のことやから四万十町でやりなさい、中土

佐町のことは中土佐町、須崎のことは須崎、佐川のことは佐川、いののことはいのという話ではないわけで、それを何かこう横串を刺すような工夫を県から沿線市町村にしてもらおう。それから沿線市町村だけじゃなくて、窪川に降りたら当然、四万十市とか宿毛とか、いろいろ行く可能性があるわけだから、そういったところも踏まえてこの観光列車というツールを生かす。

そのために、これ提案させてもらいますが、情報発信を乗車の前にどうやってするか。何月何日どの便に乗ろうということを検討してるときに、じゃあこの日どこそこで泊まって、それから翌日の特急で帰るとか、そこまで事前に分かるような仕組みをしてもらいたい。

私、JR四国にもそういう、予約する段階でこんなオプションというか、こんな旅行のプランもある、こんなこともできますよ、楽しみがありますよということを情報発信してもらいたいと言ったことがあるんです。最近航空機なんかに乗ると、前はなかったようなサービス、つまり出発が2日後に迫りましたとかそんなメールが航空会社から送られてきたりするんで、JR四国にも観光列車に乗る人に事前にそういう、乗車するんやったらこんな旅行もしたらどうですかみたいなのをメールで送ったらどうかみたいな話もしたことあるんですけど、残念ながら航空機の顧客管理とJRの顧客管理は違って個人の情報までJRは把握できてないという回答がありました。それで航空機でやってるようなことはちょっと今の時点では難しいという話もあったんですけど。

これで話を終えますが、要は県が沿線市町村、あるいは沿線だけじゃない高知県下に横串を刺して、せっかく来た人にできるだけ高知県に滞留してもらおうという取組をお願いしたいと思います。結構、窪川駅で降りたら、旅行会社の大型バスが待ってて、そこに降りてきた乗客はもう土産物なんか見向きもせずそのまま大型バスに乗って、旅行会社が設定した行程の次の目的地に行っちゃうという状況なので、何かこれもつたいないようなシーンも見えるのでね。その辺りについて課長の御所見を伺います。

**◎別府地域観光課長** 自分も乗ったときに、窪川駅で熱心にチラシを配られていて。それこそ、武石委員からのお話もあり、自分のほうも沿線市町村が、いわゆる話し合う場というのもあって、実際、その観光列車の中で、沿線市町村に降りたらどういうものがあるかというのが作れないかという話もしたんですけど、JR四国がやっぱりちょっとそこは難しいみたいな話で今ストップしています。

ただせっかく列車に乗ってこられる人がいるので、その人にいかに列車外に楽しんでもらえるか、あるいは回ってもらえるか、もう高知には来てるわけなんで、その取組、例えばキャンペーンの中で、例えば観光列車が来たら、降りてからこういう周遊ができますとかいうことが、ホームページとかに情報発信できないとか、あるいはもう1回うちも沿線市町村とも話をして、JRに再度、もうちょっと何かできないか。ただ、ちらっと、

観光列車に乗るとでっかい画面があって映像を流せるようになっていて、その中で結構、市町村の情報も何か流してるように聞いたことがあります。今の武石委員の話やと、いやいややっぱりもうそのまま列車に乗ってそのまま帰ったりするお客さんが多いということであれば、少しでも地域を回ってもらえるようなことができんか、また知恵を絞ってみたいと思います。

◎武石委員 それで、やっぱり車内でそういう紹介もあるし、それから、多分窪川駅に着いてから、これからどうするというときに、お寺へ行ったらどうですかとかいろいろ案内はしてるんですが、やっぱりそれでは遅いと思うんです。やっぱり予約をした段階からプランを立ててもらわんといかんと思うんで、その段階からの情報提供をね。列車乗ってからはちょっと遅い気はするんで、その辺りはよろしくお願ひしたいと思います。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

地域観光課を終わります。

#### 〈おもてなし課〉

◎金岡委員長 次に、おもてなし課を行います。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎浜田委員 地域通訳案内士育成事業費の件ですが、地域通訳案内士という方がどの地域にどのぐらい、現在いるのでしょうか。

◎浅野おもてなし課長 現在、地域通訳案内士は32名登録をしています。地域は高知県の全域で登録をしており、英語が21名、中国語に対応してくれる方が9名、韓国語が2名となっています。

◎浜田委員 今後のことを考えてこの育成というのがあるんでしょうけど。今実際足りないと、あと、この語学が必要であるとかはどんな状況でしょうか。

◎浅野おもてなし課長 実は地域通訳案内士の育成等計画を平成30年度に計画をしており、その計画でいくと65名の地域通訳案内士の方に登録をしてもらいたいとなっていますが、まだ不足をしている状況です。英語はともかくとして、やはり特に中国語のほうは足りていないと認識をしています。

◎浜田委員 先ほどほかの課のところで重点の国がたくさんあった中で、先ほど橋本委員の話もありましたが、様々ニーズがあると思うので、65名を目指して取り組んでもらいたいと思います。

◎横山委員 外国人観光客等受入環境整備事業は1億4,500万円ぐらい計上してますが、何市町村でどれぐらいの事業をやる予定ですか。

◎浅野おもてなし課長 先ほど地域観光課で説明した総合補助金になるので、全体で1億4,427万9,000円ということで、外国人観光客の対応としては、数字でいうと300万円となっ

ています。

◎横山委員 この補助対象事業で見たら無線LANとかトイレの改修、キャッシュレス決済とか、外国人だけに限ったことじゃなくて日本人の観光も今もうこれは当たり前になってきていると思うんで、この300万円という数字はもっと市町村に使ってもらって、さっきから地域観光課とか国際観光課で受入環境の整備は言わせてもらったんだけど、おもてなし課も一生懸命働きかけて、もっと使ってもらいたいという金額でした。またよろしくお願いします。

それとバリアフリー観光ですが、これやっぱり大事な概念だと思ってます。特にコロナ後を見据えたときに、なかなかやはり障害を持たれた方、また御家族はなかなか都会のほうにすぐに出ていこうとはならないだろうし、やっぱり本県で周遊していくことをしてくれる、そういう一つのターゲットになるんじゃないかとも思うんです。そのような中、バリアフリーをする環境整備のハードに対する支援、その辺は、国は何かそんなことを書いてるんだけど、実際そのハードに対する支援というのはどのような状況なのかを聞かせてください。

◎浅野おもてなし課長 現状では、先ほど申し上げた外国人観光客等受入環境整備事業の中に補助対象事業として③その他の環境整備をつくっています。その中に、例えばデジタルだったり、バリアフリーのちょっとした整備も対象とはしています。まずはそうした仕組みを構築することにより、今後、今年様々な自然アクティビティ、あるいは観光施設、宿泊施設等々へ実際に現地ヒアリングに回る予定なので、その中で、直接皆様のお声を聞きながら、必要な支援策を講じていきたいと考えています。

◎横山委員 相談窓口を設置して250施設をこれまで丁寧に調査されて、またそれに対するツアーの在り方というのも、プランも計画されている。これから先はやっぱりそれに沿った、そのボトルネックをしっかりと取り除いて、バリアフリー観光が本県の顔になるような形で持って行ってもらいたいと私思ってるんで、ぜひその在り方を今後検討していただければと思います。

◎橋本委員 このバリアフリー観光相談窓口というのは、昨年9月に開設をしたという話ではなかったですか。

◎浅野おもてなし課長 6月に開設しています。

◎橋本委員 昨年の6月ね。それから、この相談窓口相談に来た、その対応実績というのはどれぐらいなんですか。

◎浅野おもてなし課長 6月から3月末時点で全部で408件の相談がありますが、とさてらすの中にも相談窓口を設置していることから、通常の観光案内、観光相談ということもあります。なので、バリアフリー観光に限定すると43件となっています。

◎橋本委員 バリアフリー観光に限定する問合せが43件あったうち、実際バリアフリー観

光に来ようとか、来るとかという方の、そういう数字は分かりませんか。

◎**浅野おもてなし課長** 去年はコロナの影響が大きく、今も、今後どうなるのかはなかなか見通しが立ちづらいところですが。昨年あった相談の中では、例えば障害のある方が団体で、御家族と一緒にバスで20人で行きたいとか、そのときはどういったところを回ったらいいかとか、あるいは、知的障害のグループの方でしたが、40人でしつらえて行きたいけど、どういったところがあるか今から情報を仕入れておきたいとか、そういった御相談はありました。

一方では、県内の方ですが、認知症の御家族を連れて西部のほうに1泊2日で温泉、個別に食事ができるホテルに泊まりたい。あるいは、隈研吾氏の建築物を回りたいがどうしたらいいかというような御相談等を頂いています。

◎**橋本委員** 我々の会派でこのバリアフリー観光について県外調査を大分前にしたことがあって、今から、バリアフリー観光というのは絶対に必要なアイテムとしてしっかりと対応していかなければならないと私は思うし、特に障害者の皆さんがこういう形で観光していただけることは大変いいことだと思います。それとプラスアルファ、やっぱりこの高齢化社会の中で当然そういうニーズは多分どんどん高まっていくと思います。

ただ、いかんせん施設250か所を回られて、対応可能な施設ってどれだけあったんですか。トイレが段差があったり、ただ、なかなかみんなそれを改修してないわけですよ。それはどうですかね。

◎**浅野おもてなし課長** 今、うちのスタンスとしては、全てがバリアフリーというものではなくて、バリアの情報もバリアフリーの情報も全てお知らせをする、提供すると。その中で、障害の状況に応じて、例えば視覚障害の方なら段差があっても大丈夫、むしろはっきりした段差であればそのほうが分かりやすい。あるいは、車椅子の方だとその段差が高ければ高いほどバリアになっていく。そこで、選択肢ができるということで、それぞれの施設のほうでバリアあるいはバリアフリーの情報を提供いただき、現地調査をして、実際その情報を特設ウェブサイトを提供している次第です。そうした現地調査を基に、改善という申し訳ないですが、ちょっとした工夫で対応できるものがあれば、それをお願いしている状況です。

◎**横山委員** 最後に部長にお聞きしたいんですが、高知観光トク割キャンペーンの2万3,000人相当というのは、どういう数字を基にして出してるのですか。

◎**山脇観光振興部長** 通常のときの県内観光客の県内、県外の割合の率があり、それを掛け合わせて数字を出して、この人数で十分いけるだろうという数字を出しましたけど。昨年5月の県外の入込客数が140万人、そのうちの県内比率27.2%というのがあって、県内の観光率を推計した上に加えて、昨年ふっこう割というのをやったときの利用率があり、それを掛け合わせて日帰りツアーをプラスして15%と仮定し、それを掛け合わせて人数を出

したのが2万2,500人ということです。

◎横山委員 ありがとうございます。Go To Eatが昨日スーパーマーケットでまた販売され出したということで、そのGo To Eatとこの高知観光トク割キャンペーンとか一緒に使っていったら高知県の経済がどんどん進んでいくんで。いかに高知観光トク割キャンペーンを広報していくかを、やっぱりしっかり努めていてもらいたいし、この2万3,000人の数字は確実にいっていただきたいと思っているんで。そのためには各団体とも連携して、ぜひしっかり使ってもらえるような周知に努めてもらいたいと思います。いいでしょうか。

◎金岡委員長 要請ですね。

◎横山委員 一言もろうてください。

◎山脇観光振興部長 プロポーザルで委託先の提案を頂いたぐらいのタイトなスケジュールで何とかゴールデンウィークに間に合わそうとしてますし、今回それに20%の県内消費に使えるクーポン券も上乘せしようということで、かなりタイトなスケジュールで急ピッチで今進めています。併せて、広くPRしてこの予算が足りなくなるぐらい利用してもらえるように、しっかりPRしていきます。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

おもてなし課を終わります。

武石委員の言われたように、観光というものは見たり聞いたりしたことを確認するという作業だと思います。そうした中で、今一番受けているというか、はやってるのがライブコマース。これが今非常にはやってきている、その中で、今ライブ観光というものもあるようです。そういうことも含めて考えていただければということで、今年1年、また来年も続くかもしれませんが、知恵を出してください。頭の中にある知恵を一つ残らず出してもらって、このウィズコロナ、アフターコロナの観光につなげるように頑張ってくださいと思います。

以上で観光振興部を終わります。

## 《土木部》

◎金岡委員長 続いて、土木部の業務概要を聴取いたします。業務概要の説明に先立ちまして、幹部職員の紹介をお願いいたします。

(部長以下幹部職員自己紹介)

◎金岡委員長 それでは最初に、部長の総括説明を受けることといたします。なお、部長に対する質疑は、各課長に対する質疑と併せて行いますので、御了承をお願いいたします。

(総括説明)

◎金岡委員長 続いて、各課長の説明を求めます。

## 〈土木政策課〉

◎金岡委員長 最初に、土木政策課の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎武石委員 入札契約制度の改正についても説明いただきましたが、不調不落を防止するためにも有効に機能する見直しがされてると思います。

それと変動要因として、今コロナでいろいろ工事現場で、例えば主任技術者とか現場代理人が濃厚接触者になったとか、いろいろあるかも分からんわけですよ。そういうところには工期の延期はしてくれるという国からの方針も出て、県もそれに準じて臨機応変に対応してくれますが、まだやっぱり、業者からは入札に応じるのにコロナで工期が足らなくなったらどうしようか、だからよう受注しないとか、そういう不安な声も聞きます。これも徹底したらそんな不安を解消できると思うんですが、この点について周知徹底をどのようにされてるのか。コロナ対応、コロナに対する不安で受注を控えようとする動きに対してどうですか。

◎梅森参事兼土木政策課長 その辺りについては、建設業協会とか建設業協会の各支部も回って、御意見なども伺いながら、できるだけ事業者の御意見も聞きながら、また、発注する側の土木事務所などのやはり意見などをそれぞれ聞きながら、コロナについても、ほかの業界と比べると比較的、作業現場が外でもあるし、主任技術者の取扱いなんかも少し緩和をする方向でも考えているので、できる限りそういう事情に配慮するよう今後も引き続き考えていきたいと、常に意見を聞きながらという形で進めていきたいと考えています。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

土木政策課を終わります。

#### 〈技術管理課〉

◎金岡委員長 次に、技術管理課を行います。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎武石委員 デジタル化についてですが、事業費補助金5,400万円、補助率2分の1とある下にチャレンジコース、ステップアップコースということで、200万円12者程度、500万円6者程度、これを足したら5,400万円になるということですが。この導入する機器の購入費なんかかなり高いと思うんですけど、この数とこの補助額で本当に県内でデジタル化が進むんかなとちょっと懸念を覚えるんですけど、その辺りの御所見を聞きたいと思うんですけど。

◎渡邊技術管理課長 それぞれに想定されるモデルの購入パターンを実は検討しました。チャレンジコースというとドローンを測量に使う。例えばくいナビやるだけでもかなり効果がありますので。チャレンジコースは最初のお試しで、いわゆる体験してもらうという

ことで、そんなにフル活用というパターンでは想定していません。ただし、ステップアップコースについては、一定経験してる業者がフルに活用するというので、いろんなそれぞれの施工に使うとかソフトに使うとかで、かなりなメニューがあります。特に今まででしたら、一番高かったのがICTの建機、これ以前なら1者のそのままあるのは3,500万円、4,000万円ぐらいしていたんですが、最近技術の開発によってもとの機械に後づけで取り付ける品物ができました。当課で調べたら200万円ぐらいと、かなり価格が安くなっています。そういう最新の価格を調査して、ステップアップコースをフルに使っても大体1,000万円前後になるので、半額の補助で500万円ということで計上しています。

◎武石委員 業界の話を見ると、なぜデジタル化を進めるかといったら、業界的には省力化です。そういったところにメリットがあるからデジタル化に進むと、こういう動機になってると思うんです。ぜひこういった補助も使って成功事例をつくって、それを見せてあげて、それで広がるようにぜひ取り組みいただきたいと思います。

◎橋本委員 関連で。遠隔臨場という言葉が出てきて、これをすることによって工事の現場がどういう方向に向かうのかですが。要はその工事の管理を、今はデジタルを使って遠隔臨場を見て、それで管理をするという考え方に行くのか。例えば、主任技術者とか現場監督とかは必ずいることが制約されてるじゃないですか。3件までしか行かんでえいとかいうことが、例えばリモートで数々の現場をつなぐことによって、技術を持った方がそこでリモートコントロールすることができるようになるのか。そこはどうなるんですか。全然分からないので教えていただければありがたいと思って、お願いします。

◎渡邊技術管理課長 遠隔臨場といったら簡単に言うと、タブレットの画像を通して現地を見るというパターンで、いろんなパターンが出ると思います。現在、実際に現場で掘削したり土質を確認したら、土木事務所の担当が現場に行って現場の作業員とか主任技術者と協議してから、はい、これでオーケーですとやって帰ってきてます。かなり複雑な現場だったら当然なかなか画像を通せませんが、簡単な材料確認とか掘削した位置を確認するぐらいなら、画像だけを現場の人がスマートフォンとかで映して、タブレットサービスとかiPadとかで県の土木職員が画像を通して確認することが可能で、それで現地確認はオーケーとなります。あとほかの使い方で、若い担当が現場へ行ったときになかなか判断が困る場合があったら、画像通して上司に相談することも可能です。それで、現場へ行って複雑なのを見るパターンと、そして現場で、先ほど言った簡単に立会いできるパターンで2パターンがあるというふうになっています。

◎橋本委員 最終的に聞きたいのは、例えば今、武石委員からも話があったように、もし、このデジタル技術の導入をする、遠隔臨場等をきちっと現場に導入をして、要は合理的に人手不足の折に何とか現場がうまく回るようにということがあ、しかしながら、義務づけられていますよね。例えば主任技術者を置かなければならないとか、その現場にいな



きやならないとか、いろんなことがあるわけじゃないですか。例えばそういうことに対して、インセンティブという言い方がいいのか分からないですが、そういうものを行政のほうから与えてあげれば逆に事業者のほうは、例えば主任技術者を探すのに苦労してたら、4つぐらい持てるやん、5つぐらい持てるからやろうやという話になるかも分からないので、そんなイメージなのかどうかということを単純に聞きたかったんです。

◎渡邊技術管理課長 実は、何か所持って、何か所兼務可能ということでは、今回これは想定はしていません。いわゆる手間を省くとか、簡単にちょっとでも生産性向上とか、現場へ行く手間をなくすとか、そういうような効率化ということを考えています。

◎横山委員 建設業のデジタル化は、どんどん進んでると思うし、まだこれからですけど、これからどんどん進めていかなければならないと思ってます。先ほど橋本委員も言われた遠隔臨場にも関わりますが、今後その管理、書類の在り方、ここもしっかりデジタルを取り入れて、遠隔臨場、言わば段階確認等々を要はリモートでできる、そこから様々な形で書類もデジタル化していったり、ペーパーレス化していったりということを進めていく。その辺をしっかり進めていただきたいと、そのことがひいては建設業の働き方改革、また国土強靱化における事業の円滑な執行というふうにつながっていくと思うんで。なかなかこの工事においてがんがんでデジタル化を進めていくのはこれからだろうと思いますが、管理書類、管理のデジタル化ということをぜひ今後、さらに検討していただきたいと思っています。

それとここで大事なのが、やっぱり市町村もこういうことを使いこなせるようになってもらいたいと思っていて、当然県が先にその技術を高めていっていただき、最終的には市町村の発注工事にも遠隔臨場とかデジタルを使った管理ということをやってってもらいたい。そういう意味で、市町村の技術者の育成にも県がしっかり関わってってもらいたいと思っています。その辺の所感をお願いします。

◎渡邊技術管理課長 まず、このデジタル化に取り組んで書類の効率化を進めていくのは、国のほうがかなり進んでいます。国の研修とかも県が積極的に行くので、国の事例を参考にしながらどんどん進めていこうと考えています。

また市町村についても、それこそ今週、県下6か所で研修を行っています。ここは遠隔臨場もICTも業者もそうですが、市町村にも声をかけています。研修にも市町村にいつも声をかけて一緒に勉強していこうということで、技術管理課としては取り組んでいます。

◎横山委員 ぜひそれで進めていっていただきたい。やっぱりもう県工事、市町村工事は県が先行して市町村がしっかりそれについてきてもらおうという形にしてもらいたいと思ってます。よろしく願いいたします。

◎森田委員 確かに、このICTの導入で土木現場が多少変わるかと期待はあるんですが、導入するぐらい非常に事業規模が太い、例えば運河を掘っていくような、ソフトを入れて

同じのり面をずうっと何百メートルも掘っていくようなもので、省力化となるぐらいの事業規模がよけあるのか。のり面の切り方なんかもセットしたらそのままずっと掘るのは見たことあるんですが、高知県の細々したところなら、熟練の技能者がしゃっと掘ればいいかなと。あるいはICTを入れることによって歩掛かりを見直して圧縮するのか、あまりそれもどうかと思うたり、本当にスピードが上がるのか、悲喜こもごもの想定がある。高知県のこんな細々した山、土質が変わったり岩になったり、今そんなところに汎用することが随分日数を削減できるとかそんな事業効果が本当にあるのか。要はそういう方向やからそれはいいと。大規模な空港の現場とかやったらえいけど、これはどうですかね。事業導入効果は高知県の現場にあるんですか。

◎渡邊技術管理課長 実は昨年度、ICTの国が表彰している制度で国土交通大臣賞という大賞を取った高知県の業者があります。そこは津野町の業者ですが、そんなに大きくない山手の道路の路側の小さな現場へ小さな油圧機械を使って効率を上げて成功した事例があります。ICTは確かに全てじゃなく、それぞれ使う状況によって、100%じゃなしに使い方をこういう現場ならこういう使い方ができると、ここなら人がという、それぞれ使い方があると思います。一部の手法なので、そのような適材適所にICTを使って全体的に効率化を上げていければいいと思います。確かにベテランの職員、やっぱり現場は経験がとても大事です。ただ、一つの手法として、少しでも効率化に取り組むのがICT活用工事と考えています。

◎森田委員 分かりました。果たして県内のような細々した現場にどうかと思いながら、すごくフォーマルなやつやったらずっと効率もいいと思ったけど。そのことで効率が上がったとかで、事業の請負額の見直しとか、あるいは歩掛かりの見直しとかもいずれ時代とともに両方でいくわけよね。いわゆるそういうICTの導入によってスピードが上がるとか歩掛かりが減るとか事業費が軽減できるとかいうのも抱き合わせになるわけよね。要はそういう方向だから、ぜひ土木の工事現場にも、ICT、デジタルを導入していく時代やということで認識をしたんで進めましょう。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

これで技術管理課を終わります。

ここで、3時20分まで休憩といたします。

(休憩 15時4分～15時20分)

◎金岡委員長 それでは委員会を再開いたします。

〈用地対策課〉

◎金岡委員長 次に、用地対策課を行います。

(執行部の説明)

◎**金岡委員長** 質疑を行います。

◎**今城副委員長** 国土調査ですけど、令和2年度の補正で幾らついてるんですか。

◎**黒石用地対策課長** 補正予算の計上は2億2,000万円ですが、3億円以上の補正事業を計上しているので、その分が丸々前倒しになったものです。

◎**今城副委員長** 前年度と比べて1億8,000万円ぐらい減ってるんですが、その補正でプラスしたら同じぐらいですか。

◎**黒石用地対策課長** そういうことです。

◎**今城副委員長** ペース的に予算をかければ国土調査って進むんですか。

◎**黒石用地対策課長** 測量をどのぐらいの面積をするか、簡単にはそういうことになるので、お金と人さえ構えることができれば、市町村の職員という意味の人ですけど、事業は進んでいきますが、ただ、当然経費として、市町村に対する補助金として国が2分の1、県が4分の1、市町村が4分の1を負担する必要があるので、そこの辺りの負担がどうなるかになってきます。

◎**今城副委員長** 少しでも進むように、今後しっかりとよろしくお願いします。

◎**橋本委員** 公共のインフラを、道路なんか特にですが、整備を進めていく上で土地の収用って非常にポイントになると思うんです。今はもう先行取得なんていうのはなかなかする状況ではないので、今は地価が下がってるんで。ただ、一つは今の状況でいくと、道路のルートが決まって、その工事のところを買い付けていくわけでしょう。そうすると、場所によって違うと思うんですが、例えば地域で共有資産として持っているところとか、個人が持ってても登記を全然済ませてなくて物すごく拡散して行くところがあって、それが大きな問題に多分なると思うんです。一つは収用法にかかるところだったらいいですが、収用法にかからないところは非常に大きな問題になって、迂回をすると、それでまた工事のお金が膨らんでくるようなことが多々あると思うんですよ。国も基本的にはこういう問題に対してはある程度認識をして、取り組むというような方向性で打ち出したことがあるんですが、その後どんなになってるんでしょうか。

◎**黒石用地対策課長** 委員おっしゃるのは、恐らく所有者不明土地の関連だと思いますが、所有者不明土地の対応について、前段で委員がおっしゃった相続人が多数の場合については現在も県として500名以上の共有の案件について収用の手続を進めているところです。

北川道路になりますが、それについて順番に進めているところです。引き続きその事業認定が取れない、取りにくいとかいうことについては、事業そのものの見直しも当然そういったところであれば必要になると思うし、ただ、その所有者不明土地の対応できる範囲にも限界があるので、オールマイティーとか、錦の御旗を立てたような感じはするんですが、関係者の探索とかそういったことに対しては非常に有効に活用する制度にはな

ったんですが、やはり私権、私の財産を頂くものだから、簡単に頂くわけにはいかないの  
で、一定のやっぱり手続というか、時間もかかると思います。

◎橋本委員 地域の皆さん、集落の皆さんが共同所有しているところで、登記が全然更新  
されてないところは地縁団体とかいろんな手続はあると思うんです。それにも限界があっ  
て、国の法整備がされなければ、前に進むわけじゃないですか。できれば強く政策的  
な提案を国に対してしていくべきだと思っていて。足摺公園線も若干いろいろあったりし  
てるんですが、そんなことも含めて少し国に強烈に政策の提案をしてもらえればありがた  
いと思います。これは部長のほうがいいですか。

◎森田土木部長 実は私、昨年まで東京事務所にいたんで、その辺、国土交通省の担当課  
でたゆまぬ努力をされてるのは知っています。いろいろ所有者不明の土地に関する手続の  
簡素化、今これも継続して検討されています。それらも踏まえて、また我々の実情を国に  
も伝えていってよりよい制度になるようお願いしていきたいと思います。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

用地対策課を終わります。

#### 〈河川課〉

◎金岡委員長 次に、河川課を行います。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎上田(周)委員 2点確認させてください。1点目は、床上浸水対策特別緊急事業で枝  
川の天神ヶ谷川がもう大分概成してきて、課長の説明の足かけ7年で大変お世話になっ  
てます。国道を車が通ってもって水圧管理をやる日本でも珍しいなかなか困難な事業いうこ  
とで、結構、沿線の方が注目していて、いつできるろうという話もあり、先ほど3年度中の完  
成を目指すという説明があったんですが、予定でいく感じでいいのか。

それともう1点、最後の端に例の電源立地の周辺交付金ですか、これたしか時限立法で  
すが、現在、何年度までカバーできますか。その2点を。

◎谷脇河川課長 天神ヶ谷の床上浸水対策特別緊急事業については、現在、電車軌道を国  
のほうで移転して、最終、県の河川の護岸等を仕上げ、令和3年度の完成を目標にして  
いますが、やはり自然の状況等もあるので、来年への繰越しという場合もあると思いま  
す。

電源立地については、現在16団体で1億4,000万円ぐらいの交付を行っていて、交付期間  
が今年から10年延長されました。

◎横山委員 河川の掘削もかなり進んで、住民の安心・安全もかなり上がってるんじゃない  
か、要望したところをしっかりと対応しているという、河川課の皆さんの頑張りに感謝し  
ます。

そのような中で流域治水が始まって、これは大変大きな治水の転換になる、水防災意識社会の再構築ということを言われて、今、流域治水というところまで来てますが。国はプロジェクトを立ち上げて先日発表しましたが、県は2021年度中に県管理の6河川で取りまとめていくということですが、今後、県管理の流域治水プロジェクトはどのように進めていくつもりなのか、その辺を聞かせてください。

◎谷脇河川課長 委員のおっしゃったとおり、今年度、まず県内の6河川でこの流域治水プロジェクトを立ち上げて、どういう流域でどのような対策が可能なのかを検討して交渉していこうと考えています。そして、それを県下のほかの河川に展開していくことがまた大事になってくるので、特に堤防より住宅が低い位置に建っている河川とか、河川の横に多くの住宅が張りついている人口が密集している河川、奈半利川とかそういうところにも展開していく格好で、約20河川ぐらいは今後つくっていかなくてはならないと考えています。

◎横山委員 ぜひ、20河川、また必要があればその他を鋭意取り組んでいただき、住民の安全度を高めていってほしい。やっぱり治水があつて産業振興を図れると思うので。日高村を見てもやっぱり治水がしっかり今後なされるから、いろんな産業を誘致できる場所もあるんで、治水プロジェクトをしっかり進めていっていただきたいなというふうに思います。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

河川課を終わります。

#### 〈防災砂防課〉

◎金岡委員長 次に、防災砂防課を行います。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎横山委員 今回5か年加速化の柱にインフラの長寿命化でメンテナンスへの転換ということで、道路とかは5か年でやって終了してますが、砂防関係施設の点検、また長寿命化に関して、今後しっかり取り組んでいくべきだと思いますけど、その辺の状況はどうでしょうか。

◎藤村防災砂防課長 御指摘のように、5か年加速化対策では老朽化対策が柱の一つになっています。今年度が初年度の高知県の5か年加速化対策においても、老朽化した砂防堰堤の改築事業を主体として着実に事業を実施していきたいと考えています。

◎横山委員 ぜひ砂防施設の点検、また長寿命化に取り組んでもらいたいと思います。よろしくお願いします。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

防災砂防課を終わります。

#### 〈道路課〉

◎**金岡委員長** 次に、道路課を行います。

(執行部の説明)

◎**金岡委員長** 質疑を行います。

◎**橋本委員** 県道の道路計画について、都市計画道路のガイドラインの見直しが今年の3月にあったと思うんですが、平成19年にこのガイドラインがつくられて、多分それまでいろんなロケーションの変化があったと思います。人口の減少や様々なことがあって、いろんな形で計画を変更することに対する指針が打ち出されたと思うんですが、都市計画道路ではなくて地方の県道の計画というのはもう大分前から立てられていて、そのとおりになかなかうまくいってないところがあって、長期未着手のところはかなりあると思うんです。一番何が言いたいかという、要は先行取得をして用地を買って、ここに道がつくと言ってそのままになって、土地を提供していただいた方に対しては、ここは伸びるよと、もう今のところこういう計画がなかなか難しいとかという説明が全くないわけです。非常に裏切られた感が強い方がたくさんいらっしゃいます。そういう面で県道の道路計画についてどういうふうに今後向き合っていくのか。しっかりとした計画の変更をするのか、計画をそのままにしてずっとやっていくのか、その辺をちょっと聞きたいと思います。

◎**黒岩道路課長** 長期未着手の土地が存在していることは度々御指摘も頂いており、十分認識をしています。これは路線ごとに個々の事情もあります。本当に申し訳ないですが、取得させていただいてから長い間地元と話ができていなかったところも確かにあり、計画を見直すべきところは着実に見直していかなければならないと思ってます。未着手になったのは公共事業費が削減されて随分計画が変わったということもありますが、ただ、最近の防災の観点から公共事業費も僅かですが伸びてきているので、期間は延びましたが、また着手できる場所もあると思うので、そこは各土木事務所と地域と十分に話をしながら計画をまた考えていきたいと思っています。

◎**橋本委員** 総花的に計画をそのままにしておくのではなくて、先ほど課長が言ったように、できる可能性があるところと、もう無理だということのさび分けはしっかりしてあって、それを例えば関係住民の皆さんにきちっと話をするとか、例えば先行取得で土地を提供してくれた方々がおって、そのまま塩漬けの土地になって使わないことになれば、非常に感情的な、土地の収用に関わって収用課も地域の皆さんと信頼関係というものがあるじゃないですか。「県に言ったってあれで。やるってから提供したけど、全く何ちゃあせんで何十年もほたくられる。」という話は聞きたくないので、ぜひともそういうことに対してきちっと手当てをしておいてもらいたい。県道を改良するのに「協力してや。」って、そうならななかなか言いにくいじゃないですか。ぜひともそういう形で対応してもらえればありがたい。私、2年ぐらい前にも一般質問とかしたと思うんですが、部長そのときはあったと思うけど、なかなかそういう話が前に進んでないので、ぜひともそういうことで、

部長どうですか。

◎森田土木部長 橋本委員がおっしゃっている路線は大体想像がつくんですが、先ほど言ったように三位一体改革以降、公共投資がかなり削減されたあおりを受けて、やむなく中止しているところも結構あります。できれば現道にタッチさせて暫定形ででも提供してもらった土地を有効に活用して一区切りつけるのは一番いいところなんですが、そこまでもようしなかったところもあるんで。先ほど道路課長が言ったように、これからの情勢も踏まえながら、地元の状況と土木事務所の支所を通じて聞いて、どのようなしまいづけがいいのか、もしくはもうまるっきりお手上げなのか、そこら辺は判断して、しっかりと地元で説明するということが対応させてもらえたらと思っています。

◎横山委員 命の道の整備は本当に高知県の未来につながるものなので、何とかこれからもよろしくお願ひしたいと思っています。

森田部長が東京事務所に1年おられたけれども、なかなかコロナの中で要望活動ができなかったんじゃないかと。やっぱり道路の要望は高知県挙げてしっかりやっていただきたい中において、先ほど説明にもありましたが、国道33号は、上田（周）委員とも一緒に年に2回ほど上京して、しっかり地元の実情を訴えながら要望活動したわけですが、コロナ禍で仕方なかったとはいえ、要望活動についても様々な創意工夫を持って熱意がしっかり国に伝わるように、当然、遅れている本県の道路整備はまだ進めていかなければならないので、要望活動にしっかり取り組んでもらいたいと思いますが、その辺の意気込みを部長に聞かせてもらいたいと思います。

◎森田土木部長 去年はコロナの影響で、例年だと道路の要望は東京で大会が開かれると、高知県34市町村のうち20以上の首長が参加していただく、全国的にも非常に熱心な県ということで国土交通省なんかにも認識を頂いている。そういう活動を去年は十分できなかったわけですが、コロナ禍における生活様式の変化に対応すべく、去年もタブレットを持って、国土交通省や県選出の国会議員にウェブで要望することも何度かしました。それに、期成会の会長の首長にも参加してもらおうとか、そんな工夫もしながら対応した事例もあります。やっぱり皆さんが行ってその熱意を伝えてもらうのが一番いいんですが、今後、それがかなわないときには、そういうウェブを活用したりいろんな工夫をしながら、高知の道路整備の必要性を国に訴えていきたいと考えています。

◎横山委員 我々としてもしっかりそれを後押ししたいと思っていますし、まだまだ遅れますので、ぜひよろしくお願ひします。

あと課長に聞きたいんですが、道路のメンテナンスは当然、新設、改築とともに今後大きな課題になって柱に位置づけられてますが、個別補助化も進んでいくことで、しっかり対応はされると思いますけど、市町村の管理している橋とかが今後どうなっていくのか。国管理、県管理はメンテナンス協議会でしっかりやって、市町村も入ってると思うけど、

なかなかマンパワー的なものや財政的なものとかが厳しい中、早急にやらないかん市町村の橋梁をしっかりと手当てしていく。特に中山間が孤立化しないようリダンダンシーも図りながら、今後県としてどのように支援していくのか、その辺の御所見を聞かせてください。

◎黒岩道路課長 市町村の道路資産のメンテナンスに関することですが、先ほどおっしゃったように道路メンテナンス会議は、国、県、市町村で行っており、市町村の担当の方々にも情報を広く流すことと、実際の点検の委託業務を高知県の技術公社で取りまとめて発注するといったコンサルタントと市町村とのつなぎをしています。あとは、そういった費用を、交付金等の確保にもつなげていくといった支援を行っていきたいと思ってます。

◎横山委員 なかなかこれから大変だと思いますが、市町村は当然マンパワー不足だし、財政的にも厳しいところがあるので、その辺も国と連携しながらしっかり対応してするようお願いいたします。

◎金岡委員長 質疑を終わります。

道路課を終わります。

#### 〈都市計画課〉

◎金岡委員長 続きまして、都市計画課を行います。

(執行部の説明)

◎金岡委員長 質疑を行います。

◎森田委員 都市計画課とは違うんですが、道路課とか河川課とかに包括的に関係するところとして、部長がおいでできるき言わせていただくのは、河道計画あるいは河川の改修計画、道路も含めて事業計画を立てる時、県は、いわゆる農業産出額も上げたいですね。卑近な例やけど、ハウスに当たるようにせんでも、コンサルタントに描かせたら、いろいろ問題が起きんような、一般的に右岸と左岸に同じだけ現河川拡幅をするけど、そうなれば、片っ方は、法線上その方向で全然問題ないけど、ハウスへ当たって補償費をやって、農業産出額にも係るし、もう高齢化して建て直す余裕がない。片や河道計画からいっても、柿を植えただけの空き地がずっとあって、全然、物件補償も要らんのに。そういうところについてコンサルタントに出して全てよしやなしに、県の目線はやっぱりもっと土地利用とか農業産出額も増やさないかん、工事を潰したらいかん。そういう県の行政目線もちゃんと入れんと。そういう人が育ってないんじゃないか、もうコンサルタント任せで技術屋の技術力が伸びてない、あるいは末端の土木事務所、現場の人にまで県の産出額を上げようとかいう政策的な部分が行き届いてないんじゃないかと思ったりするんですよ。そういう目線は県全体のトータルの政策として僕は必要じゃないかと思います。そういう目線も道路の拡幅改良、あるいは河道計画を立てるときも都市計画をやるときも、もっと県行政に包括的に役に立つとか、県の方向性を一にする中で、それぞれの事業も成果を上げていかないかんと思うんで、そういう指導とか、土木部においても僕はそういう目線を



肥やしてほしいと思うんですが、部長どうでしょうか。

◎森田土木部長 おっしゃるとおりかと思います。基本的な線形とかで、アールをきちっと取らなきゃいけないとか、視距を取らなきゃいけないとかいう制約があつてやむなしそういう法線になるのは仕方がないと思いますが、そういう沿道の利用状況を踏まえて総合的に考えればこういうルートが、周辺の土地利用においても一番有効であろうという観点は当然必要なので、今までもそういう観点で計画立案をしてきたとは思いますが、委員がそういう感想を持たれるということは必ずしもそうはなっていない。そこについては、また土木事務所にも、なお一層そういう視点で計画立案するように指導して、また若い技術者にもそういう観点での計画立案の必要性をなお指導していきたいと思います。

◎森田委員 いい話を頂いたと思うんで、技術屋の皆さんがそういう県全体の大きな方向性に合う中で技術力を発揮するように、また指導してもらいたいと思います。

◎浜田委員 1点だけ。はりまや町一宮線ですが、様々な報道等をちょこちょこ新聞等で拝見するんですけど、現状予定どおりとか、どのような状況なのか教えてもらいたいです。

◎本田都市計画課長 全てではありませんが、私が勉強した範囲で答えます。はりまや町一宮線については、平成30年に再開して、いろいろ説明も差し上げて工事に着手をしています。現在、はりまや工区については、2月議会で承認を頂き、国道33号から新堀橋までの区間の1工区の工事を3か年の債務を頂いて実施をしています。工期が令和3年3月23日から6月16日となっています。引き続き2工区についても今年度、予算をつけています。来年2月議会でまた説明する予定ですが、それで工事を発注して、令和6年度の完成に向けて進めたいと思っています。現在、契約している工事については、契約後まだ1か月もたっていないので、当然、現地は何もなくて、今ちょうど石垣の埋め戻しが終わり、続いて干潟の造成工事があります。その間に起工、測量などを行い、条件が整ったら工事に入るので、地元説明会を進めていく予定になっています。ただ、いつやるのかはまだ調整中なので、はっきりと言えませんが近々、地元の説明会を進めていきたいと思っています。

◎金岡委員長 それでは、質疑を終わります。

都市計画課を終わります。

お諮りをいたします。以上をもって、本日の委員会は終了し、この後の審査については、明日行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎金岡委員長 異議なしと認めます。

それでは、今後の日程については、明日の午前10時から行いますので、よろしくお願いたします。

本日の委員会はこれにて閉会をいたします。

(16時35分閉会)